

取って、食べなさい

主任司祭 吉池 好高

「取って、食べなさい。これはあなたがたのために渡されるわたしの体である」。この御ことばに招かれて、このようにおっしゃってくださる主を信じて、ミサのたびごとに、わたしたちは聖体を拝領します。「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はいつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人のうちにいる」(ヨハネ 6・56)。ここに聖体の秘跡の神秘があますところなく啓示されています。

わたしたちが聖体を拝領するのは、主がわたしたちの内にとどまってくださることを願ってのことです。わたしたちがそうするのは、いつもわたしたちの内にいることを望まれて、主が聖体の秘跡を定められたからです。主のこのお望みに応えるために、わたしたちは聖体を拝領するのです。こうして、わたしたちのうちにいつもいてくださろうとする主のお望みは実を結びます。聖体のうちにこめられた主の想いのすべてを信仰をもって受け入れることが出来るとき、わたしたちは実を結ばざるをえなくなります。「わたしがあなた方を愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である」このように言われた主は、続けて言われます。「友のために自分のいのちを捨てること、これ以上に大きな愛はない」(ヨハネ 15・12-13)。ご自分の十字架の死をイエスはこのように受け止めておられたのです。わたしたちをも友と呼んでくださる主は、このような愛にわたしたちを招こうとして、愛の掟を与えてくださったのです。「わたしが愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である」。肉のいのちを捨てることのできないわたしたちを友と呼んでくださる十字架上のイエスの招きの御ことばです。

わたしたちがこの招きに応えて真にイエスの友となることが出来るために、今日も主は御聖体のうちにそのいのちを分かち与えてくださいます。このいのちの交わりのうちに、わたしたちも互いに友の絆に結ばれて、現代社会の中で目に見えるキリストのからだとして成長し、その使命を果たしてゆきましょう。わたしたち一人ひとりが聖体の秘跡において実現し、示されている真のコンムニオに結ばれて成長して行けますように。